

豊平會報

北海学園大学同窓会 ● 編集責任者 / 高田哲也 〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1-40 TEL 011-841-1161



C O N T E N T S

- 2 令和2年度臨時評議員会開催
- 3 各行事の開催中止について
- 4 研究室のいま 山田誠治教授
- 5 コロナ禍の就職環境と支援
- 6 特別寄稿 河崎秋子さん
- 8 輝く北のまち紹介リレー 豊富町
- 9 輝く北のまち紹介リレー 岩内町
- 10 令和元年度事業報告 / 令和2年度事業計画
- 11 令和元年度収支決算書 / 監査報告書 / 令和2年度予算
- 12 クラブ・サークル活動通信 / 事務局からのお知らせ



令和2年度臨時評議員会開催

事業計画など原案どおり承認

新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止になっていた評議員会（6月26日(金)）について、検

温、マスク・フェイスシールド着用、手指消毒、ソーシャルディスタンス等の感染防止対策を徹底し、臨時評議員会として8月

20日(木)午後6時から札幌パークホテルにて開催された。

卒業期94名、地域・職域支部47名、計141名（委任状含む）と同窓会役員50名（委任状含む）が出席した。

開会、次第に基づいて進行さ



左から、森本同窓会会長、藤本議長、平野副議長

れ、森本正夫同窓会会長より新型コロナウイルス感染拡大防止のため大学も同窓会も会議、行事等の自粛や延期、中止を余儀なくされ、油断のならない状況下で学生、大学を取り巻く環境も一段と厳しく、皆様のご理解、ご支援、ご協力をお願い申し上げますとの挨拶があり、議長に藤本哲也氏（経済・昭和52年卒）、副議長に平野一紀氏（法学・昭和55年卒）、議事録署名人に卒業期から高野勝義氏（経済・昭和42年卒）、地域・職域支部から齋藤昂一氏（経済・昭和44年卒・旭川支部評議員）を選出し、議事に入った。

第1・2号議案

令和元年度事業報告並びに収支決算について、事務局の大橋孝行と佐々木啓明から報告・会計監事を代表して横谷貞夫氏（短大土II・昭和39年卒）から監査報告が行われ、原案どおり承認された。

第3号議案

令和2年度事業計画（案）並びに予算（案）について、事務局の大橋孝行と佐々木啓明より説明が行われ、原案どおり承認された。

第4号議案

奨学金について、平成27年度より実施している北海学園大学同窓会奨学金規定並びに北海学園大学同窓会奨学支援助実施細則に基づき、第1種同窓会奨学金は、今年度も実施する事となり、承認された。

また、新型コロナウイルスによる困窮学生支援のため、緊急措置として今年度に限り492万円を奨学金として支出する事が了承された。

第5号議案

今後の対応について、新型コロナウイルス感染拡大防止のため12月までの会議、行事の開催中止と各支部総会開催の自粛も

しくは延期について説明が行われた。詳細は3頁を参照願います。（評議員会資料は、10・11頁に掲載）



支部長・評議員交替

支部長交替

木端会 令和2年2月21日付
白鳥 健志 氏
↓
岡田 貴裕 氏
(平成元年工学部卒業)

支部評議員交替

石狩市役所支部 令和2年4月1日付
新岡 研一郎 氏
↓
伊藤 英司 氏
(昭和62年経済学部卒業)

伊藤組土建支部

令和2年4月1日付
本吉 幸二 氏
↓
小須田 一馬 氏
(平成13年経済学部卒業)

コロナ禍における同窓会行事の開催中止について

新型コロナウイルスの感染拡大は日本国内のみならず、世界的な流行となり私たちの生活に大きな影響を与えております。

同窓会におきましては、感染拡大防止のため、支部の活動等を自粛または延期とする措置をとっていただくようお願いをまいりました。また、今後の活動の再開時期等についても検討を重ねてまいりましたが、卒業生の皆様の健康を第一に考えますと少なくとも令和2年12月末まではこの措置を緩和することはできないのではないか、という結論に至りました。

つきましては、誠に残念ではございますが、令和2年度「ホームカミングデー」(10月10日)、「全国支部長会議」・「同窓の夕べ(総会・懇親会)」(10月24日)の開催を中止とさせていただきます。

支部総会につきましても引き続き自粛もしくは延期としていただきますようお願い申し上げます。

同窓生の皆様におかれましては、お仕事、生活面で大きな影響がでていることと思います。

また、この度のコロナ禍により罹患された方々や被害を受けられた方々にお見舞いを申し上げます。一日も早い快癒と平常の生活に戻られますようお願いしております。

このような状況下において、大学を取り巻く環境も一段と厳しいものがございます。

同窓生の皆様のご理解と温かいご支援・ご協力を賜りまして、この難局を乗り越えてまいりたいと考えております。何卒宜しくようお願い申し上げます。

『北海学園大学創基七十年記念誌』刊行に寄せて

北海学園大学七十年史編纂委員会 委員長 高木 裕之 (経営学部教授)

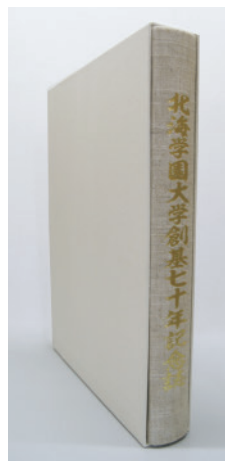
2020年、北海学園大学は北海短期大学設置より数えて70年を迎えました。このたび、これを祝して『北海学園大学創基七十年記念誌』(A5判、上製本、418頁(グラビア頁含む)、印刷:株式会社アイワード)を刊行しました。遡ること昭和61年に『北海学園大学三十五年小史』が出版され、35年を経た現在、その時々を肌感覚として感受し、本学の発展に貢献されてこられた関係者も多いことから、今回刊行の運びとなりました。本書のライトモチーフは創基100年に向けての提言であり、これを過去及び現在の出来事や経験談から学び将来への足掛かりとしたいという思いからの編纂でした。そのため、いわゆる年史とは幾分性質が異なった内容となっています。

本書は「インタビュー・メッセージ編」、「沿革編」及び「資料編」の3部構成であり、森本正夫理事長、安敏敏真学長はじめ、学長経験者、学園法人、大学関係者、同窓の方がたから絶大なるご支援とご協力を頂戴しての出版となりました。とりわけ、「インタビュー・メッセージ編」は大学の創立からの貴重なお話やそれぞれの役職を通して経験された苦労話に基づく提言など、どれもが示唆に富む内容となっております。なお、発行部数に限りがあったため、本書のPDF版を本学ホームページの「卒業生のみなさんへ」に収録し閲覧できるようにする予定です。なお、本記念誌が縦組み(「インタビュー・メッセージ編」)と横組み(「沿革編」、「資料編」)から構成されているため、PDF版では閲覧のしやすさを考慮して、本記念誌とは構成を入れ替えております。また、このためにPDF版では本記念誌記載のISBN(978-4-600-00415-6)を削除のう

え、いくつかの補遺を行いました。

本記念誌の編纂にご支援・ご協力いただきました皆様に改めまして衷心より感謝を申し上げます。そして、完成に向けてご助言いただきました株式会社アイワード様、グラビア写真の取り込みと写真撮影に多大なるご協力をいただきました株式会社ロボット様に感謝申し上げます。

最後に、本記念誌が創基100年に向けての道標のひとつとなることを願ってやみません。





経済学部地域経済学科教授

山田 誠治

YAMADA Seiji

一担当科目
学部 中小企業論

- 経歴 1958年大阪市生まれ。東北大学理学部中退後福島大学経済学部卒業。東北大学大学院経済学研究科博士課程後期単位取得終了。北海学園大学経済学部赴任。
- 研究業績 『現代アメリカ産業論』(共訳)、『苦悩するアメリカの産業』(共著)、『北海道産業史』(共著)、『EU 中小企業政策の戦略的展開について』など

平成元年、私は北海学園大学に赴任したが、お世話になってからの31年を振り返り、私のささやかな経験を紹介したい。

そもそも、私の大学院時代からの研究テーマは、アメリカの情報エレクトロニクス産業の分析である。1980年代の半ばは、メイド・イン・ジャパンが世界を席卷し、日米貿易摩擦が激化する中、テレビ産業などでアメリカのメイド・イン・USAが競争力を失った時期であった。注目したのは資本主義としての日本とアメリカの経済システム・企業編成の違いであり、これを情報エレクトロニクス産業の発展と比較から分析することにあつた。今振り返れば、この時期は、日本が「経済大国」と有頂天になり、アメリカではイノベーションを伴いながら大手メーカーからシリコンバレーなどのベンチャー企業に新陳代謝が進んでいた時期とも言える。この構造的問題は、今回の新型コロナでの日本デジタル活用の「立ち遅れ」を紐解く鍵とも考えられる(ただし、いいか悪いかの評価は別だが…)。

授業やゼミは、北海学園大学に即した内容が必要、とアメリカのテーマは外国書講読のみで探究し、北海道の課題を意識した中小企業に関するテーマを手がけ、道内外のいろいろな地域を訪問し、講義のための資料を収集した。

赴任当時、北海道は拓銀崩壊直後で、また一次産業中心や公共事業依存をどうするかが問われていた。この変化の時期、学生の問題意識と探求心を醸成するには、知識や既存の理論を詰め込むより「書を捨てて外に出よう」と、直接地域の現場やその人たちと接し、これを掘り下げる、という趣旨で道内外に学生を連れて行った。

ゼミのテーマは、談合問題、大型店と中心市街地の空洞化問題、地域からの情報発信やメディアのあり方、最近では観光振興、と時代に応じて変えてきた。談合問題では、道庁や議会、業界団体から聞き取り調査をし、辛辣な質問をした企業に学生が就職したり、中心市街地のテーマでは、道内の中核都市や札幌の地下街などでも店舗や顧客アンケート調査を行い、まちづくりの意識の違い、などについていろいろ考えさせられた。地域メディアの関係では、ローカルテレビ、ミニコミ誌、フリーペーパー、コミュニティ放送など、道内外のいろいろな現場に出かけ、いろいろ刺激的な人のお世話になった。成果は、かつて

研究室のいま

はゼミ論文としての報告にまとめたが、私自身の研究論文としての成果は乏しく、とはいえ、双方ともいろんな分野で勉強が積みあげられ、「山田会」の卒業生と会うところの話で盛り上がるものである。また、道内の市町村部や地元企業では、ずいぶん多くの人のお世話になり、そして必ずといっていいほど本学の同窓生と会うことになり、お世辞でなく、本学の卒業生が地域で活躍していることを実感した(逆に、時には厳しいお叱りも…)。

また、課外活動の硬式野球部の副部長・部長を十数年続けてきたことも、道外から来た私にとって、北海学園大学を肌で学べた強烈な経験であった。野球シロウトの私はたいした役割は果たせなかったが、故池田均先生といつも直接球場に足を運び、選手や硬式野球部OBとの濃厚な付き合いは忘れることができない。ほんとうに色々な問題に直面もしたが、北海学園という大学のことを考えるきっかけを与えてもらい、人間としても学ぶことが多々あつた。

昨年から、情報ネットワークとデジタル革命についての講義を手がけ、劇的に変わりつつある業界構造、それに伴う企業の編成や労働過程そして人間関係のあり方の変化について探求しているが、実際は新型コロナ対策のオンライン授業づくりに追われている。中小企業研究のテーマというのは時代とともに変わってきたように、今日も考えなければいけないテーマが出現しているが、どこか一つにでも成果を出し、また学生にこのデジタル化にどう向き合うか、という教育課題にも取り組んでいこうと思う。



2011年地域研修 沖縄FMたまにて

コロナ禍の 就職環境と支援

キャリア支援センター
事務長 河井 裕司

世界的にコロナウイルスの感染拡大で大変な事態となっており、2021年卒業を迎える学生の就職活動にも大きな影響を及ぼしています。3月・6月に学内で実施する予定であった合同企業説明会の中止、また各就職情報会社が開催する説明会等も軒並み中止となり、学生が直接企業と接触する機会が失われています。しかしながら、企業の中にはWeb上での説明会開催やWeb上での面接を実施するなど、採用において積極的な企業も多数存在しています。6月を過ぎてからは、対面での説明会を開始する企業も増えてきました。

本学でも、履歴書・エントリーシートの添削、面接練習、就職相談については、メール・Zoom・電話等で対応していました。ガイダンス等につきましては、職員が動画を撮り、学内システム上で視聴するというスタイルで行いました。6月8日より大学は一部対面授業開始になりました。キャリア支援センターでも「新北海道スタイル」安心宣言を遵守し、学生対応を対面とWebの両

方で行っています。また、企業の採用担当者も本学の状況を伺いに来学されています。

4年生の内定状況につきましては、7月末現在で昨年よりも10%ほど低くなっていますが、コロナの影響で採用活動そのものが凍結されていた企業も多くあります。一部の業界では、採用を中止するという企業もありますが、ごく少数です。実際のところ多くの企業で採用活動は後ろ倒しになっています。「売り手市場」と言われた昨年・一昨年でも8月以降に北海道内の堅実な企業から求人が多く寄せられておりましたので、後ろ倒しとなった今年につきましても後半の求人に期待をしているところであります。

学生の皆さんには、学内の就職ポータルサイト「ミナトコム」に寄せられる求人やキャリア支援センターからの情報に注目していただき、就職に関する悩み相談については、当センターをご利用ください。





作家は(ほどほど) つらいよ

河崎 秋子

自分の小説が出版され始めた頃、近所に住む中学生から「将来作家になりたいのですが、どうしたらいいですか」という相談を受けた。

アドバイスを与えようにも、私もそもそも新米なので、志を持った青少年に何かを言う資格があるのだろうか…と悩みつつ話を聞いていると、どうもおかしい。本人に作家になりたいという気持ちは確かにあるのだが、それ以上に、親御さんに「我が子を大作家にしたい、うちの子は優秀だからなれるはずだ」という気持ちの方が先に立っているようだった。

ふむ。私は少し考えて、「けっして華々しくもないし儲けられる職業でもない」「それでも挑むのなら、長期戦を覚悟すること」「若いうちに知見を広げること」といった、一般的と思われるアドバイスをした。その一方で、内心、難しいケースだな、とも感じたのだった。

作家という仕事は、実はけっこうしんどい。なるのが難しい割に、食べていけるかどうかとも保障されない自由業だ。世の中にけっこう名前を知られる先輩作家ですら、住宅ローンを組むのに苦労したという話もある。つまり、あまり親が子に諸手を挙げて勧められる仕事ではないのだ。

そして実際、「親も周囲も反対するが自分は絶対に作家になるんだ」と、そういう気概があつてしかも諦めなかった者が本当に作家になるパターンが多い。中には親兄弟の全面的なバックアップを礎に作家にな



仕事場。常に複数の×切りに
追い立てられています。

れた幸運な人もいるだろうが、知り合いの作家の話を見聞きすると、周囲からの反対や偏見を「なにくそこんなにやろう」とひっくり返すパワーを推進力に変えてきたケースが多いように思う。さて、件の中学生はどうなるだろうか。

私個人は昨年末、生活環境をがらつと変えた。長年飼育していた羊を手放し、実家の牧場を出たのだ。これによって農家兼作家という二足の草鞋を片方脱ぎ、専業作家としての一步を踏み出した。現在、高校の頃に暮らしていた十勝に住まいを移し、静かな環境で執筆に精を出している。

単身のため、家族の都合に合わせる必要はない。会社勤めではなく、ましてや農家でもなくなつたため、何時に始業し何時ま

でに仕事を終え、といった縛りは完全になくなった。フリーランスだからこそ仕事に自己管理能力は必要だが、逆に、やるべき仕事をやってしまえば時間の融通はかなりきく。

生活の緩さだけを見れば、学生の頃に戻つたみたいだなあ、とも思う。思い返してみるとあの頃は、多少の縛りはあるとはいえ自分の裁量で時間割を決めていた。遊ぶ相手も自分で選んだ。バイトも選択権は基本的に自分だ。

空いた時間でぶらぶら散歩をしたり、本を読んだり。会いたい友人がいれば夜でも呼び出したり、または呼び出されたり。数年後の就活、という将来の不安はあれど、割とのんびり暮らせていたような気がする。(友人から見ると私はバイト詰め込み



河崎 秋子 (かわさき あきこ)

プロフィール
経済学部1部経済学科
49期 2002(平成14)年卒
小説家 十勝管内在住

受賞歴

『東陔遺事』
北海道新聞文学賞(2012年)
『颯風の王』
三浦綾子文学賞(2014年)
JRA賞馬事文化賞(2016年)

『肉弾』
大藪春彦賞(2019年)
『土に贖う』
新田次郎賞(2020年)

近所の風景。息抜きに散歩に出かけます。



すぎ、と思われていたようだが）
ただ、職業・作家として社会人となった今、あの頃とは大きく変わったことも多い。納税、国保、年金。そして決定的に違うのは、仕事時間外での頭の使い方だ。
おそらくクリエイター業に従事する人の多くもそうだと思うのだが、作家というのは就業時間外でも常に創作のことを考えてしまうのだ。映画を見ている、娯楽のための本を見ている、意識の一部で「この設定、何かに活かせないかな」と考えてしまう悪い癖を持つことになる。
また、自覚していなくても、いわばバックグラウンド計算のように脳が勝手に創作のことを考え続けてしまう。極端な例をいうと、眠っていても小説のことを考えて

しまっている。夢も当然向き合っている。小説の夢ばかりを見る。こうなるともう、二十四時間仕事をしているようなものだ。『小説がんじがらめ病』とでも呼ばいいだろうか。肩こり・腰痛に続いて『小説がんじがらめ病』。作家の職業病ベスト3に数え上げたい。
今、もし親戚やら昔馴染みのお節介な年配者から「小説なんて書くのやめて普通の生き方すればいいのに」などと言われたら、私はなるべく品よく「そうですね〜その方が楽かもしれませんね〜ウフフ」などと微笑んでみせるだろう。だって仰る通りだ。小説を書くのは楽しい、精神も体力もなんなら寿命ですらゴリゴ

リと削られてしまう。
そのうえで、私は内心では「なにくそこんにゃろう」と言うだろう。そうやって今後も、なんとかかんとか自分の小説と格闘していくし、その道しか選べない。
この間、久しぶりに高校生になる親戚の女の子と顔を合わせた時、舞台芸術が学べる大学に進学したい、でも親から反対されている、という話を聞かされた。結構なことである。進学先決定となると学費を出す親御さんの意向は最大限重視すべきだろうが、もし本気でそっちの勉強がしたいのであれば、本当にやりたい、そして成し遂げてしまおう子は自分で学費稼ぐなり、他の道に進んだ後でも努力して、最終的にその目標に手を届かせてしまうものだ。
なので、身内という気安さもあり、私は彼女に「諸手を上げて賛成されたらかえって居心地悪いって。親はそりゃ普通ではない仕事なら心配するし反対もする。それが真つ当な反応だよ。もしあんたがその反対を押し切ってもやりたいんだつたら、相当な覚悟と努力が必要なのは分かるね？ あとはよく考えて自分で決めなさい」と言っておいた。
別にそれで諦めたのならそれはそれでいいのだ。ただ、もし彼女が「なにくそこんにゃろう」と思って茨の道を行く決心をしたら、こっそり後押しはしてやろうと考えている。

輝く北のまち 紹介リレー



とよとみちよう
⑪ 豊富町

～人口の4倍以上の牛がいる酪農と観光を基幹産業とする町～

人口：3,826人
面積：520.69km²
(令和2年7月末現在)

～酪農、サロベツ湿原、豊富温泉などが魅力～



河田誠一 豊富町長
(昭和56年工学部土木工学科卒業)

豊富町は、最北の地である稚内市より南に約40kmに位置し、面積520.69km²、人口4,000人弱で酪農と観光を基幹産業とする町です。

本町を代表する酪農では、現在、生乳生産量は年間68,000トあり、その生乳から飲料牛乳やヨーグルトが製造され、道内に約1,100店舗を持つ「セイコーマート」で「セイコーフレッシュ牛乳」や「北海道豊富生乳100%プレーンヨーグルト」として、また、本町のふるさと納税で大人気「北海道ソフトクリームグランプリ2019」で第1位を獲得した「豊富牛乳ソフトクリーム（ミルクカフェ&雑貨 フェルム）」として販売されています。

観光では、代表的なスポットとして固有種や絶滅が危惧される野鳥など貴重な動植物が生息する「サロベツ湿原（利尻礼文サロベツ国立公園）」や大正15年に石油の試掘中に天然ガスと共に温泉が噴出した日本最北の温泉郷「豊富温泉」があります。

特に、現在も温泉と共に噴出している天然ガスは、温泉地区の宿泊施設や町内の一部事業者へ燃料として供給されているほか、町有の施設である日帰り入浴施設「ふれあいセンター」、総合交流施設「湯の杜ぼっけ」でCGS（コージェネレーション）により発電のエネルギーとしても利用しております。また、豊富温泉は油分を多く含んだ珍しい泉質で日本唯一の温泉であります。昔から火傷などへの効能は言い伝えられておりましたが、近年、改めて乾癬やアトピーなどの皮膚疾患に非常に効能があると評価を受けており、平成29年7月には厚生労働省より「温泉利用型健康増進施設」の認定を受け、入浴料や交通費が医療費控除の対象となったことで全国から多くの湯治者が訪れ、平成29年度から令和元年度まで459件の利用実績があり、この実績は全国22の認定施設の中で最も利用されている状況です。この取組と併せて本町では、他の地域でアトピー等の皮膚疾患で通学困難な小中学生を対象とした「湯治留学制度」による支援も行っておりますので、お近くに皮膚疾患でお困りの方がいらっしゃいましたら、遠慮なく役場の方へご連絡ください。詳しくはホームページ「豊富温泉ミライノトウジ」でご検索を。

～人生を決めた出会いと経験～

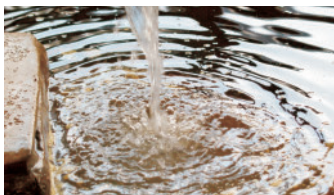
私は、豊富町で生まれこの町で育ちました。先祖は、明治43年に山形県から開拓のため入植し、私で4代目になります。「この最北地の開拓は、想像を絶するものであった。」と小学生の時によく祖父から聞かされておりましたが、この「困難に負けない開拓精神」が、今の私を作り上げてきたと思っています。



サロベツ湿原…ラムサール条約にも登録された、日本最大の高層湿原である「サロベツ湿原」は、町の花であるエゾカンゾウをはじめとした約70種類の花々が咲き、野鳥や動物たちが豊かな命を育んでいます。



豊富牛乳…北海道に本社を置くコンビニ「セイコーマート」で販売されている牛乳はすべて豊富町産であり、ミネラルを含んだ牧草を食べストレスなくのびのびと成長した牛から絞った牛乳は、脂肪分が高くコクのある味わいと道民から愛されています。



豊富温泉…世界には2つ、日本には1つしかない油を含んだ非常に珍しい泉質をもつ「豊富温泉」は、アトピーや乾癬など皮膚疾患に効能が高いといわれ、全国から効能を求め湯治客が訪れています。また、湯治に訪れた方々からは「奇跡の湯」とも呼ばれています。

この精神を持って高校時代は、北海道稚内高等学校（稚内市）へ入学し数学と物理を中心に勉学に励んだほか、測量のアルバイトにも精を出し、特に、アルバイトでは測量士が暗渠や草地面積の測量、排水路の丁張りなど設置している姿に感銘を受け、北海学園大学の土木工学科を受験するきっかけとなったことを今も鮮明に覚えています。ちなみにですが、当時の受験状況は共通一次試験が導入される前の年で、また、諸先輩の方々のご活躍で北海学園大学の人気が上がっていたため、入学が難しい時代だったと記憶しています。

無事合格した大学時代では、学問以上に社会勉強に力を入れる日々が始まり、様々なアルバイト（特にすすきのでのアルバイト）を経験しましたが、この経験も今思えばとても良い経験であったと思っています。

～就職そして町長への挑戦～

大学卒業後は、稚内市の建設会社から地元高校出身者の繋がりからお誘いを受け、13年間お世話になり、多くのことを学びました。その後、生まれ故郷である豊富町で役場職員（技術職）を募集しているのに来て欲しいとの誘いを受け、農道の設計や圃場整備事業に携わり、40歳の時に退職、同級生や仲間の支援を受けて町長選挙に出馬しましたが残念な結果となりましたが、48歳の時に改めて様々な方々から支援を受け町議会議員に当選、3期12年（うち2期8年を議長）を務め、令和元年5月1日より現職の豊富町長に就任いたしました。

～町の未来を見据えて取組中～

私が現在政策として取り組んでいるのは「豊富クラスターシティ構想」です。クラスターとは集団（集約）の意味があります。現状においてこの表現は、悪い意味で用いられていることが多いですが、豊富町では、町の機能や資源を集約しスローガンである「笑顔で豊かに暮らせるまちづくり」を達成するための重要なキーワードとなっています。昨年からの目標に向かって、まちづくり懇談会の開催や基幹産業振興の補助事業を新設、温泉・天然ガス等の資源を活用したエネルギー事業の推進など行っており、最近では、世界最大規模の蓄電池を備える風力発電の建設が開始されています。

～不撓不屈～

現在、豊富町役場には北海学園大学の不撓不屈の精神を受け継いでいる卒業生6名が勤務しており、豊富町の未来を築くため能力を発揮しております。私の北海学園大学で過ごした4年間は、同級生や関係者の皆様方に支えられ、本当に楽しく充実した時間でした。感謝申し上げます。

今後も北海学園大学で学んだことを礎に「不撓不屈」の精神で行政運営を行っていきたく思っておりますので、同窓生の皆様、変わらぬご支援をよろしく願いたします。



とよとみ牛乳ソフトクリーム…「MilkCafe & 雑貨 ferme」で販売している「とよとみ牛乳ソフトクリーム」は、豊富牛乳をふんだんに使った濃厚でクリーミーな味わいが魅力で、ふるさと納税などで全国の方々から支持されている自慢の特産品です。



大規模草地牧場…町が所有する「大規模草地牧場」は東京ドーム約320個分の広さを持ち、その冷涼な気候と広大な牧草地の中で、乳牛たちがストレスなくのびのびと過ごし、自然豊かな豊富牛乳が生産されています。

輝く北のまち 紹介リレー

いわないちよう
⑫岩内町 ～道内でも開基が古く、海産物による食と自然環境に恵まれた町～

人口：12,155人
面積：70.60km²
(令和2年5月末現在)



～漁師町の食文化と一年中楽しめるアクティビティ～



木村 清彦 岩内町長
(昭和61年工学部土木工学科卒業)

岩内町は、札幌から後志方面へ車で2時間弱、積丹半島西側付け根に位置する面積70.60km²に約12,000人が暮らす港町です。開基は宝暦元年(1751年)と道内でも古く、「日本のアスパラガス発祥の地」「サッポロビール誕生のきっかけとなった野生ホップ発見の地」「夏目漱石が22年間も本籍を置いていた」など、興味深い歴史のエピソードを有する町でもあります。(参考までに、過去にゆるキャラ全国大会で2度準優勝した「たら丸」

は当町のマスコットキャラクターです。)

明治期からニシン漁場として賑わい、漁業と水産加工業を主力として栄えてきた町。今は産業構造も様変わりしていますが、岩内を代表する食としてお寿司や水産加工品(身欠きニシン、数の子、タラコなど)が広く支持を得ているのも、スケトウダラの白子で作る「たちかま」や、大きなエビの入った「天ぷらラーメン」が漁師町特有の食文化として度々メディアで紹介されるのも、魚を扱う伝統技術が脈々と受け継がれてきた所以かも知れません。岩内の SOUL FOOD! 機会がありましたら一度ご賞味いただければと思います。

食べ物だけではなく、岩内町は自然環境にもとても恵まれていて、街を見下ろす岩内岳(1086m)の麓にある円山エリアは、市街地から車で10分ほどで温泉宿・美術館・スキー場・オートキャンプ場・パークゴルフ場・登山・乗馬体験などが楽しめます。これからのシーズンなら、海の幸が自慢の温泉宿にお泊まりいただき、日本夜景遺産に認定されたロマンチックな夜景を眺めながらゆっくりと湯浴みされるのがおすすめです。どちらのお宿も「新北海道スタイル」の取り組みを実践しており、安心してお泊まりいただけますので、是非岩内町へお越しください。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

～健やかな、町民が望む町づくりへ～

私は、健やかな町づくりを目指して町長になりました。健やかな町づくりでは、そこに住んでいる自分たちが住んでいて気持ち

のいいものでなければ、良い町づくりにならないのではないかと考えています。他の地域の人が見てきれいかどうかという前に、自分たちが住んでいて気持ちがいいかどうか基本であり、ともすれば住民の利便さに何の役にも立たないような事業の推進が町づくりの名のもとに行われ、結果的に自分たちの生活を圧迫するものになってしまうのは大きな間違いだと思っています。このため、町民が望む町づくりに向け、経済優先の町づくりから居住環境の改善も両立する町づくりをしていこうと考えています。

本町を取り巻く周辺環境も、今後10年間で後志自動車道の倶知安余市道路や北海道新幹線の札幌延伸など高速交通インフラの整備が一層進み、人と物の流れが大きく変わることが予想されます。こうした激動の時だからこそ、時代の要請と町民の要求を見極め、目指すべき目標に向かってしっかりと進んでいこうと思います。

～恩師との出会いで今の自分がある～

私は、4年生の時の卒論を河野教授にお世話になりましたが、先生との出会いは、その後の私が進む道に大きな影響を与えることとなりました。

先生は、当時の私に現実の厳しさをよく説いてくれましたが、その一つが卒業後の就職であり、私立大学を卒業する君は国立大学の卒業生と最初から給料で差をつけられるというもので、そんな中で平等な扱いなのは公務員だと言っておられました。

当時の工学部は、国家公務員、地方公務員、コンサルタント、工業者など就職先は様々でしたが、私は自分の性格を思うに図面・設計書があり、決められた予算内でその物を作るというよりは、ここに何をどのようにして作っていくかという仕事のほうが向いているのではないかと思いました。そんな中で公務員と民間のちがいがみえないものを先生から言われたわけで、これはもう公務員になろうと。

もう一つ、卒業式でのことですが、当時の学長が私たち卒業生に対して言ったことが、学園の伝統とも言いますか次の世代への継承のことでした。北海学園は、諸君の先輩たち、そして諸君たちのおかげで確かな伝統を築いてきた。そして、この伝統を引き継ぐため諸君の子供たちにも、必ず本学に来ることを望むと力強くお話されておりました。

今の時代、人と人のつながり、ネットワークは大変重要であり貴重な財産ともいうべきものですが、社会に出て北海学園出身のたくさんの仲間がいろんな場面で助けてくれ、勇気づけてくれることを感謝とともにとても心強く感じています。



伝統の「たら子」と自慢の水産加工品



日本夜景遺産に認定された円山展望台からの夜景

令和2年度 事業計画

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

今年度の事業計画は、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から自粛もしくは中止とする場合がありますが、本会の目的を達成するため、次の一般事業活動を展開するとともに、継続中の特別事業の学園創基・大学創立及び本会結成を記念した事業を継続推進することを提案いたします。

なお、新型コロナウイルス感染症の状況が刻々と変化します。ホームページにてご報告を随時させていただきます。

I. 一般事業

1. 会報の発行

豊平會報第85号・第86号を発行し、会員に送付する。また、予備会員である在大学生にも配布する。

2. 支部等との連携強化と育成

地域支部・職域支部・同期会・クラブOB会などと連携を深め、支部活動や同期会・OB会活動を活性化するとともに、要請がある場合は「個人情報保護法」に基づき利用目的を明示したうえで会員の住所等の提供をおこない、支部支援を図る。また、支部の活動活性化のために助成をする。

3. 新会員名簿の作成

令和2年度新会員(令和2年9月・令和3年3月卒業)名簿の作成、また、配付については、個人情報保護法との関連で見合わせる。

4. 卒業祝賀会・新会員入会歓迎会の開催

令和2年度卒業祝賀会・新会員入会歓迎会を、大学院・大学の卒業証書・学位記授与式(3月20日(土・祝))終了後、大学・学生自治会と共催で開催する。

5. ホームカミングデーの開催

同窓会・大学共催による第13回ホームカミングデーを、10月10日(土)開催する。

6. 全国支部長会議の開催

総会・懇親会に集う全国の支部長より支部活動報告・意見交換を、10月24日(土)開催する。

7. 総会・懇親会の開催

本年度総会担当の世話人会を経済学部1部経済学科53期(平成18年卒)同経営学科39期(平成19年卒)・経済学部2部経済学科40期(平成8年卒)同経営学科28期(平成8年卒)・法学部1部35期(平成13年卒)同2部35期(平成13年卒)・工学部社会環境工学科1期(平成18年卒)・建築学科35期(平成18年卒)・電子情報工学科24期(平成26年卒)・人文学部1部日本文化学科23期(平成31年卒)・同1部英米文化学科23期(平成31年卒)同2部日本文化学科23期(平成31年卒)及び体育会本部OB会、体育会OB連合会、文化協議会OB会、応援団OB会、クラブOB会、ゼミOB会、地域・職域支部等の協力により、10月24日(土)総会を開催する。

8. 母校行事への協力

予備会員である在大学生及びクラブの活動に対して助成をする。学校行事を通じて、大学との交流を促進する。

II. 特別事業

- 学園創基・大学創立及び本会結成を記念した国際交流基金造成事業として、北海学園国際交流基金への寄付を継続してきたが、北海学園が同基金を取り崩し、学園設置校の国際交流教育活動への効果的な支出ができる国際交流教育振興資金としたため、本会としては引き続き国際交流事業を継続し、今年度100万円を国際交流教育振興資金に寄付する(31回目)。
- 北海学園大学同窓会奨学支援規程及び同実施細則に基づく本会奨学事業を実施するため、今年度230万円を加算積み立てするとともに、228万円を奨学金として支出する。なお、新型コロナウイルスによる困窮学生支援のため、緊急措置として今年度に限り493万円を加算積み立てとし492万円を奨学金として支出する。
- 総合名簿作成事業積立金として、今年度20万円を加算積み立てする。
- 大学・同窓会のオリジナルグッズ等について、小委員会にて検討の上、作成作業を進める。

令和元年度 事業報告

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

1. 一般事業

1. 豊平會報の発行

豊平會報 第82号 送付	31. 4.15	経・営・法・人・工学部の住所確定会員	42,072名に送付
豊平會報 第83号 印刷・送付	01. 9.17	経・営・法・人・工学部の住所確定会員	42,748名に送付
	01. 9.30	新会員(令和元年9月卒業)	77名に配布
豊平會報 第84号 印刷・送付	02. 3.20	新会員(令和2年3月卒業)	1,712名に送付

(新型コロナウイルス感染症拡大防止より卒業証書・学位記授与式が中止となったため送付)
また、予備会員である在大学生(1年～4年)にも配布した。

2. 支部等との連携強化と育成(支部等活動状況～同窓会本部に連絡のあった分)

31. 4.20 苫小牧支部総会	01. 6. 7	岩見沢市役所支部総会	01. 8.16	北見支部総会
31. 4.20 真真部OB会総会	01. 6. 6	関西支部総会	01. 8.31	江別支部総会
31. 4.20 グリークラブOB会総会	01. 6.15	鶴牛会総会	01. 9.13	ゆうほう会総会
31. 4.20 山岳部OB会総会	01. 6.21	サッカー部OB会総会	01. 9.14	経三期会総会
01. 5.18 帯広信金支部総会	01. 6.21	北翔会総会	01.10.25	東京支部首都圏会総会
01. 5.23 北海学園大学支部総会	01. 6.22	空知支部総会	01.10.26	会計学友会総会
01. 5.24 千歳支部総会	01. 6.22	応援団OB高志会総会	01.10.26	経八期会総会
01. 5.25 小樽支部総会	01. 7. 5	道南支部総会	01.11.16	旭川支部総会
01. 5.25 札幌南区支部総会	01. 7. 5	岩田地崎建設支部総会	01.11.30	旭川支部総会
01. 5.31 江別市役所支部総会	01. 7. 6	自衛隊支部総会	02. 1. 8	豊陽会総会
01. 6. 5 経五期会総会	01. 7.17	札幌東区支部総会	02. 2.15	北社会総会
01. 6. 6 経六期会総会	01. 7.25	東園会総会	02. 2.21	本編会総会
01. 6. 7 静内支部総会	01. 7.30	札幌市役所支部総会		

3. 新会員名簿の作成(豊平会名簿 令和元年度版)

令和元年度新会員(令和元年9月卒業・令和2年3月卒業)名簿を作成する。なお、配付については、平成17年4月施行の「個人情報保護法」の取り扱いとの関係で、見合わせる事とし、慎重に対応していく事とした。

4. 新会員歓迎パーティの開催

02. 3.20 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、卒業証書・学位記授与式は中止。併せて卒業祝賀会・新会員歓迎パーティも中止された。新会員(1,712名)には卒業記念品を送付した。

5. ホームカミングデーの開催

01.10.12 同窓会・大学共催による第12回ホームカミングデーが開催された。第7回「学園かえるカフェ」では、「北海道から起業しよう!」と題して、クリプトン・フューチャー・メディア株式会社代表取締役後藤本学OBの伊藤博之さんに「事業展開」について、株式会社ACT NOW代表取締役後藤後田ゆかさんに「クラウドファンディング」について講演をいただいた。本学大平義隆経営学部教授、佐藤大輔経営学部教授が加わり、法学部長博見弘紀教授の進行でパネルディスカッションが行われた。OBによる産地直送野菜・果物販売、北海道支部・苫小牧支部・小樽支部・空知支部協賛によるご当地特産品販売、鶴牛会による抽選会・射的などの「北海マルシェ」、OB異業種ネットワークの協力支援により日本カイロプラクティックドクター専門学校札幌校の生徒による「無料カイロ施術」も大変好評だった。写真部OB会による「写真展」10/12～10/14が大学1号館(入試課前廊下)で開催された。また、学生食堂を開放して昼食の無料提供には、250名の方が参加し賑わった。

6. 総会・懇親会の準備・運営

世話人・協力団体会議 (第1回)	01. 8.21	(1) 令和元年度「同窓の夕べ」開催の件について	(2) 会券の配付について
(第2回)	01. 9.18	(1) 「同窓の夕べ」開催の件について	(2) その他
「同窓の夕べ」総会・懇親会	01.10.26	(1) 総会・会務報告	(2) 懇親会 750名参加「札幌パークホテル 3F パークホール」

7. 母校行事への協力

お祝いの看板(祝卒業)	02. 3. 7	3号館 学生正面玄関取付け
(祝入学)	02. 3.30	3号館 学生正面玄関取付け
各団体への経費助成	02. 3.30	教育会館入札取付け 十月祭・工学祭・対東北学院大学定期開戦、全国大会出場・定期公演・演奏会等助成 体育会系12団体・文化会系17団体

8. 会務運営に関する諸会議

会計監査	01. 5. 7	(1) 平成30年度決算について	(2) その他
幹事会(第1回)	01. 5.21	(1) 平成30年度事業報告並びに決算について	(2) 監査報告について
		(3) 評議員の改選について	(4) 同窓会奨学金について
		(5) その他	
幹事会(第2回)	01. 6. 3	(1) 令和元年度事業計画(案)について	(2) 令和元年度予算(案)について
		(3) 評議員の改選について	(4) 同窓会奨学金について
		(5) 役員の変動について	(6) その他
評議員会	01. 6.28	(1) 平成30年度事業報告並びに収支決算の承認	(2) 監査報告について
		(3) 令和元年度事業計画(案)並びに予算(案)の承認	(4) 評議員の改選について
		(5) 同窓会奨学金について	(6) その他
幹事会(第3回)	01. 9. 4	(1) 令和元年度「総会・懇親会」開催の件について	(2) 「同窓の夕べ」会券配付について
		(3) 「全国支部長会議」について	(4) 教育支援振興資金(奨学金)について
		(5) 「ホームカミングデー」開催の件について	(6) その他
幹事会(第4回)	02. 1.10	(1) 令和元年度「全国支部長会議」終了報告	(2) 令和元年度「同窓の夕べ」(総会・懇親会)終了結果報告
		(3) 第12回「ホームカミングデー」終了報告	(4) 令和元年度「卒業祝賀会」開催の件について
		(5) その他	
全国支部長会議	01.10.26	(1) 北海学園大学のいま(学長の講演)	(2) 支部活動について(報告・意見交換)
		(3) 北海学園大学出前講義2019「朝鮮半島はどこに向かうのか」	
常任幹事会(第1回)	01.11.18	令和2年度諸事業について考察	(1) 「ホームカミングデー」について
		(2) 「全国支部長会議 特別講演会」について	(3) 「全国支部長会議」について
		(4) 「同窓の夕べ」について	(5) 「卒業祝賀会」について
		(6) その他	
副会長・担当幹事会議	01.12.16	(1) 令和元年度「卒業祝賀会」について	(2) 第13回「ホームカミングデー」について
		(3) 令和2年度「全国支部長会議」について	(4) 令和2年度「同窓の夕べ」について
		(5) その他	
担当幹事会(第1回)	01. 7.26	(1) 令和元年度「全国支部長会議」について	(2) 令和元年度「全国支部長会議 特別講演会」について
		(3) 講義「北海学園大学出前講義2019」について	(4) 令和元年度「同窓の夕べ」について
		(5) 第12回「ホームカミングデー」について	(6) その他
(第2回)	01.11. 5	令和2年度諸事業について考察	(1) 「ホームカミングデー」について
		(2) 「全国支部長会議」について	(3) 「全国支部長会議 特別講演会」について
		(4) 講義「北海学園大学出前講義2020」について	(5) 「同窓の夕べ」開催について
		(6) その他	
(第3回)	02. 1.24	(1) 令和元年度卒業祝賀会・豊平会(同窓会)新会員入会歓迎会について	(2) 第13回「ホームカミングデー」について
		(3) 令和2年度「同窓の夕べ」について	(4) その他
(第4回)	02. 2.21	(1) 令和元年度卒業証書・学位記授与式について	(2) 令和元年度「卒業祝賀会」について
		(3) 令和2年度「評議員会」について	(4) 令和2年度「同窓の夕べ」について
		(5) その他	
事務局会議(第1回)	01. 6.25	(1) 令和元年度「評議員会」について	(2) その他
(第2回)	01.10.24	(1) 令和元年度「全国支部長会議」について	(2) 令和元年度「同窓の夕べ」について
会報部会(第1回)	01. 6. 4	(1) 「豊平會報」第83号の編集の件について	(2) その他
(第2回)	01.11.15	(1) 「豊平會報」第84号の編集の件について	(2) その他
学生部・事務部協議	02. 1.28	(1) 令和元年度「卒業祝賀会」の件について	(2) その他

II. 特別事業

- 学園創基・大学創立及び本会結成を記念した国際交流基金造成事業として、北海学園国際交流基金へ寄付を継続してきたが、北海学園が同基金を取り崩し、学園設置校の国際交流教育活動への効果的な支出ができる国際交流教育振興資金としたため、本会としては引き続き国際交流事業を継続し、今年度100万円を国際交流教育振興資金に寄付した。(30回目)
- 平成2年より継続中の教育支援積立基金(旧(財)奨学・特別表彰積立基金)は、目標額を1億円に変更して事業を継続してきたが、厳しい経済状況において就学する北海学園大学生の教育活動に効果的に支出するため、平成25年度に同基金を切り崩し、教育支援特定積立とした。これにより、同窓会奨学支援規程及び同実施細則に基づく本会奨学事業を実施するため、今年度230万円を加算積み立てするとともに、228万円を奨学金として支出した。
- 奨学事業の実施に関する諸会議
奨学学生選考委員会 01. 6. 3 (1) 奨学学生選考について (2) その他
奨学学生認定証授与式 01. 7. 2 (1) 奨学学生認定書授与式
- 総合名簿作成事業積立金として、今年度20万円を加算積み立てした。
- 大学・同窓会のオリジナルグッズ等について、小委員会にて検討の上、作成作業を進めた。

令和元年度 収支決算書

北海学園大学同窓会 令和元年度 収支決算書

自:平成31年4月1日 至:令和2年3月31日(単位:円)

Main financial statement table with columns for '区別' (Category), '科目' (Item), '予算額' (Budget), '決算額' (Actual), '差異' (Difference), and '摘要' (Remarks). It details income and expenses for the fiscal year.

(注) 次年度繰越 1. 一般会計 ¥23,483,506(北洋銀行・普通預金) 2. 特別会計(予備金) ¥123,720,000(北洋銀行・定期預金平成28年～令和元年) 予備金受取利息・積立 ¥7,957(北洋銀行・普通預金) 3. 特別会計(特別事業) ¥58,286,248(教育支援特定預金②・総合名簿作成事業積立③(北洋銀行・定期預金))

監査報告書

北海学園大学同窓会 会長 森本 正夫 殿

令和2年6月24日

私ども会計監事は、北海学園大学同窓会の令和元年度(平成31年4月1日～令和2年3月31日)収支決算書について監査を行った結果、下記の通り報告致します。

- 1. 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、収支決算書の記載と合致していることを認めます。
2. 金銭出納簿、その他会計関係諸記録は、その状況を正しく示していることを認めます。
3. 事業計画に基づき業務遂行がなされ、また、幹事会も適切に運営・実施されていることを認めます。

監事

氏名 横谷 貞夫

監事

氏名 櫻田 久

監事

氏名 高岡 昌和

令和2年度 予算

北海学園大学同窓会 令和2年度 予算

自:令和2年4月1日 至:令和3年3月31日(単位:円)

Budget statement table for the next fiscal year, structured similarly to the current year's statement, showing planned income and expenses.

クラブ・サークル活動通信

卒業生、サークルOB・OGの皆さん、 応援よろしくお祈りいたします！

【アカペラサークル Lapis】 会長 竹本 望尋 経済学部経済学科 3年

アカペラサークル Lapis は、現在、102名のサークル員で活動しています。週1回の例会や、今年ではできませんが、合宿や夏キャンプ等の行事、また、道内外のアカペライベントへの参加もしています。また、全国大会やハモネブなどへの出場を目指した活動、そして、年度末にはサークル単独ライブの“SOUNDIA”の開催も行っています。

今年は昨年との5期同期バンド“パインアメ”に引き続き、6期同期バンドの“アルベジオ”がハモネブへの出場を果たし、各バンドだけに限らず、サークルの名を北海道内外へと発信しています。

今年は新型コロナウイルスの影響で、各地のライブイベントが軒並みなくなってしまい、活動の幅が制限され、苦悩しています。しかし、個人で録音をし、リモートでの演奏動画を出したり、少ない時間でも練習を欠かさず続けています。いつかこの情勢が終わったときに、少しでも良い演奏を皆様に届けられるように、サークル一丸となり励んでいます。

OB、OGの皆様の支えもあり、Lapisは来年入ってくる新入生で、めでたく10期となります。これからも先代から続く“Lapis”という変わらない空間を、その先へ続けていけるように、この険しい旅路を乗り越えて行きます。これからも引き続き厚いご支援をいただけますと幸いです。



【囲碁研究会】 会長 對馬 花歩 人文学部日本文化学科 3年



囲碁研究会は現在4年生12名、3年生6名、2年生4名、1年生2名の計24名で活動しています。現在は新型コロナウイルスの影響でオンライン活動のみを行っています。

今年は新型コロナウイルスの影響で学生大会、一般大会などの対面での大会は軒並み中止になっており、チャンスが潰されるという状態です。また実際に対局できないことを含めて、オンライン活動では他の部員の対局の様子を知ることができないのが辛い状況ではあります。しかし6月27日に行われた学生本因坊ネット予選では優勝し、全国大会出場を果たした部員もいます。限られた環境の中ですが、これからも日々の練習を頑張っていきたいです。

部室で対局を行える日がいつになるか再開の目処は立っていませんが、これからも部員全員でこの状況を乗り越えていきたいと思えます。OB・OGの皆様の声援も大きな支えになるので、これからもご声援のほどよろしくお祈りいたします。

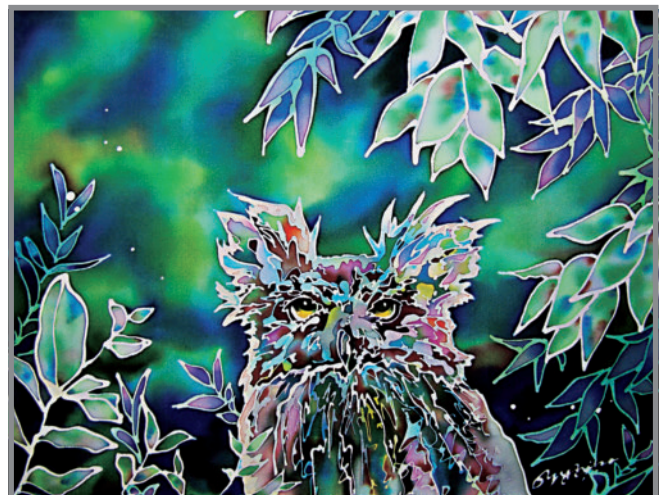
事務局からのお知らせ

◆町村長選挙

- 浦臼町長 2020年4月21日 1期目
川畑 智昭氏 (昭和58年経済学部卒業)
- 南富良野町長 2020年4月26日 6期目
池部 彰氏 (昭和49年工学部卒業)
- 別海町長 2020年5月24日 2期目
曾根 興三氏 (昭和50年工学部卒業)
- 平取町長 2020年6月9日 1期目
遠藤 桂一氏 (昭和55年経済学部卒業)
- 長沼町長 2020年7月28日 1期目
斎藤 良彦氏 (昭和60年経済学部卒業)

◆訃報

佐藤 嘉大氏
平成元年法学部卒業
前北海道教育委員会 教育長
令和2年4月4日逝去 (62歳)
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



多岐アート
Vol.5

ミミズク~2020 brushup
米田 由美子 作
プロフィール: 経済学部経済学科 平成2年卒業

住所変更の際はご連絡をお願いします

お手数でも同封の「住所等変更届はがき」(無料)または、ホームページ (<https://www.hgu-dousoukai.org/address/>)、FAX (011-816-1001) にて、同窓会事務局までお知らせくださいますようお願いいたします。個人情報同窓会活動以外には使用いたしません。

北海学園大学同窓会

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1-40
TEL: 011-841-1161(内線1148・1168) FAX: 011-816-1001
E-Mail: doso.hgu@k8.dion.ne.jp
ホームページ: <http://www.hgu-dousoukai.org/>